

日本航空宇宙工業会（SJAC）の広報活動

毎月SJAC会報「航空と宇宙」をご拝読くださりありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」）の影響によりSJACの活動に一部制限が伴うことがありましたが、一方、新しいスタイルでの活動を追求して遂行しております。SJACの最大の使命は航空宇宙産業におけるネットワーキングにあると自負しております。アフターコロナを見据えて我が国航空宇宙産業の発展に努めるSJACの諸活動を適切に情報発信することで、さらなる飛躍に寄与するとともに、SJACをご理解くださり、ファンになっていただけたら嬉しく思います。

本誌の編集を担当しておりますSJAC広報部の活動の一部をご紹介します。

1. 広報活動

国内及び国外の報道関係者、航空宇宙関係者、及び一般の方への適切な情報提供、お問合せへの対応等とおして、我が国航空宇宙産業の概況を正しくご理解いただけるようご紹介に努めております。

(1) 出版物

- ①「航空と宇宙」（月刊）：会員の皆様はじめ関係諸官庁等関係先に配布し、SJACの活動状況を紹介しております。わかりやすい表現に努め、多くの方にSJACの

活動をご理解いただく『読み物』でありたいと思っています。

今月号から本誌表3（最後のページ）に『JA事務局ニュース』の掲載を始めました。2024年10月に東京ビッグサイトで行う「2024年国際航空宇宙展（JA2024）」の情報を逐次紹介し、開催にむけてもり立ててまいります。

- ②「組織と活動」（隔年発行）：SJACの目的、組織、主な活動、及び会員企業を紹介しております。





- ③ 「はばたく日本の航空宇宙工業」、同英語版「Japanese Aerospace Industry」(毎年発行)：日本の航空宇宙産業の概要を文章と写真・CGなどでわかりやすく紹介しております。

これらはSJAC出版物の一部ですが、SJACホームページに掲載しております。どうぞご確認ください。

(2) ホームページ

SJACホームページの内容を都度アップデートして最新の情報提供に努めております。そして、昨年6月、2008年以来14年ぶりにホームページをリニューアルしました。アフターコロナに向けた情報発信に新ホームページを有効なツールとして活用してまいります。多くの方からのアクセスを期待しております。どうぞよろしくお願いたします。

・デザインリニューアルの概要：

- パソコン画面のワイド化への対応とスマートフォンからのアクセスへの最適化
- 内容の充実とシンプルな構成への見直しによる利便性の向上

- * 今月号から本誌表4(裏表紙)に新ホームページの『QRコード』を掲載しています。



(3) メディアへの情報提供等

- ①会長記者会見：SJACは定時総会の開催に併せて、会長記者会見を開催しております。コロナ禍、最も厳しい状況であった2020年を除き、2021年、2022年は感染予防対策をとった上で開催いたしました。今年も開催を予定しております。
- ②その他情報提供：
 - ・今年も海外エアショーへの出展説明会などを計画しております。
 - ・メディアの皆さまとの良好な情報交換に努め、各方面からの情報発信と併せて、我が国航空宇宙産業の発展に寄与できればと考えており、既に有識者と専門誌に共感いただき実行しております。
 - ・比較的最近の話としては、話題となったテレビドラマで、航空機部品製造への参入を目指す中小企業のシーンについて若干のアドバイスをさせていただきました。

2. 海外エアショーへの出展

SJACは古くから会員企業とともに世界最大級のエアショーであるパリエアショーとファンボローエアショー（各々奇数年、偶数年の隔年開催）に出展しております。世界中の航空宇宙関係者が一堂に会する海外エア

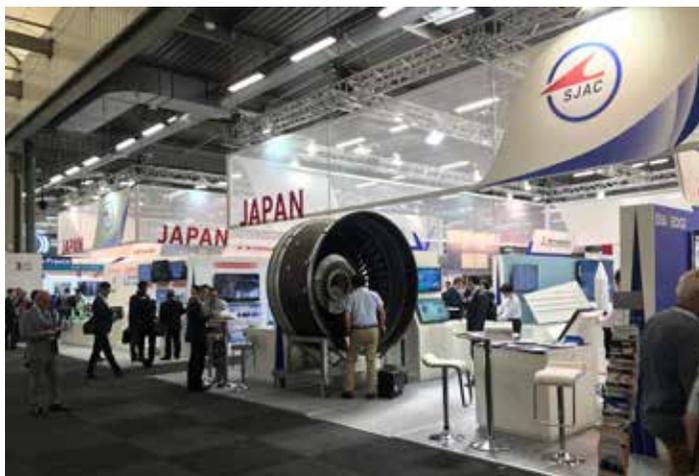
ショーこそがネットワーキングの最大の場です。コロナの影響で、2020年ファンボローエアショーと、2021年パリエアショーの開催が中止になりましたが、昨年2022年はファンボローエアショーが再開し、待ちに待っていた多くの関係者が参集したことで航空宇宙産業のりカバリーが印象づけられたと思います。SJACも2019年パリエアショー以来3年ぶりの海外エアショーであった本件エアショーに会員企業とともに参加し、安全に出展を完了しました。日本ではまだコロナ禍、併せてウクライナ情勢下の不確実な状況でのエアショーでしたが、欧州におけるコロナ後の航空宇宙産業復活に向けた動きとともに、日常生活が取り戻されている様子を強く感じました。

両エアショーへのSJAC出展参加の歴史と併せて、今年6月のパリエアショーへの参加に向けた準備の状況を以下にご紹介いたします。

(1) パリエアショー、ファンボローエアショー SJAC出展参加の歴史

①パリエアショー：

- ・パリエアショーは、1908年にParis Motor Showの一部として航空機が紹介され、翌1909年9月（9/25-10/17）にパリ市内グランパレで第1回エアショーが行われま



した。第1次世界大戦前に更に4回開催された後中断しましたが、1919年に再開し、1924年からは隔年開催になりました。第2次世界大戦により再び中断しましたが、1946年に再開し、1949年からは奇数年毎に開催されています。

会場は、グランパレでの開催が続きましたが、1949年から飛行展示をパリ・オルレイ空港で実施するようになりました。その後、1953年に飛行展示を含めてグランパレから現在のル・ブルジェに変更されました。

パリエアショーは、1960年代に世界的に注目されるようになり、1970年代以降、航空分野の主要な国際エアショーとして台頭しています。

- ・ SJACは、1971年「第29回パリエアショー」（開催：'71 5/27-6/6）にJETROの補助として初参加して以降、継続して参加しております。

②ファンボローエアショー：

- ・ 1920-37年は、ロンドン北部ヘンドンで毎年開催されており、最初の10年間余りはRAF（英国空軍）との共同開催でした。1932年がSociety of British Aerospace

Companies（SBAC）主催による第1回の開催であり、1942年以降、偶数年毎に開催されています。

その後第2次世界大戦による中断を経て、1948年からファンボローで開催されるようになりました。

ファンボローエアショーは、奇数年毎開催のパリエアショーと交互に開催されており、エアショーの構成も似ています。1974年、現在の名称「Farnborough International Airshow」となり、現在に至っております。

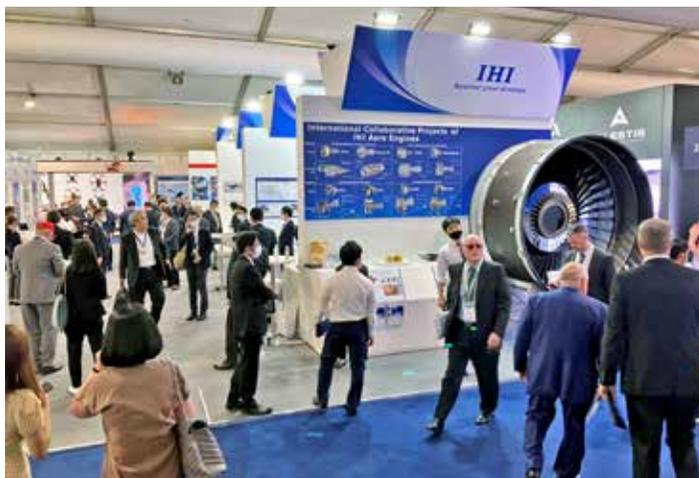
- ・ SJACは、1978年：「Farnborough International Airshow '78（第31回ファンボローエアショー）」（開催：'78 9/3-10）に初参加し、JETROによる業界の総合展示の出展を取りまとめました。以降、継続して参加しております。

(2) 2023年パリエアショーへの参加 「2023年第54回パリエアショー」

①会期、会場：

- ・ 2023年6月19日（月）- 25日（日）
- ・ パリ郊外ル・ブルジェ空港

- ②SJACブース：Hall 4内 406㎡〔前回2019年：357㎡〕



③出展会社：17社〔同：10社〕

④活動計画：

- ・実機部品、模型、映像、壁面デザイン、パネル等による展示と説明
- ・出展企業によるプレゼンテーション「Japan Aerospace Workshop」
- ・商談コーナーの設置
- ・SJAC事業紹介：2024年国際航空宇宙展（JA2024）、SJAC会員紹介

(3) SJACブースへの多くの参加に向けて

2022年ファンボローエアショーへの出展をとおして、世界における航空宇宙産業の復活を強く感じたことから、SJACは今年のパリエアショーにより積極的に参加することとし、展示面積を約50㎡拡張いたしました。そして、この航空宇宙産業復活のタイミングを理解いただいた17社が出展されます。SJACは海外エアショーにおいて、SJACブースへより多くの出展会社に参加いただけるよう、サービスの向上と改善に努めております。

エアショーの業務は、出展に向けた情報収集、エアショー事務局との諸調整、展示スペースの確保、会場申込み、SJACブース出展準備、エアショーでの出展対応、現地での安全衛生、SJACブース撤収、費用の精算に至る間、多くの期間と作業ロードが伴います。SJAC会員企業の海外エアショーへの出展には、SJACブースへの参加の他、単独での出展という手段があります。出展の自由度と言う意味では単独出展にもメリットがあると思います。しかし、SJACブースへの参加には、単独出展にはない次のような多くのメリットがあると思っております。

①良好な展示スペースの確保：

・SJACは約50年間リピーターとして出展しており、会場展示ホール内のほぼ同じ場所と規模を確保できております。

・毎回同じ場所出展していることから、日本企業に関心のある来場者を多くお迎えしております。

②出展準備の負担軽減：会場申込み、ブース建造、展示品輸送など多大な労力と時間が伴います。SJACブースでのご参加において出展準備と運営の大部分はSJACが行いますので、作業ロードが大幅に軽減できます。出展会社には自社の出展そのものに注力いただくことができます。

③安全な出展：SJACブース出展企業の宿舎、会場へのバス移動など、基本的に団体行動としております。各社のブースご出張者の安全にも寄与すると考えます。

SJAC広報部の活動を紹介させていただくのは初めてのことです。SJACの多くの活動は年間スケジュールに沿った中長期的なスパンで遂行しておりますが、広報部は、日々の情報収集、出版物の編集などの締切日が伴う月単位の業務を含めた、さまざまな活動を少数精鋭で忙しく遂行しております。「何かが完了するとすぐ次が始まっている」というサイクルを繰り返していることから、時間の経過が大変に早く感じます。

広報部は、今後も我が国航空宇宙産業の正確な情報をご提供するという重要な活動に邁進してまいります。

SJAC及び広報部をどうぞよろしくお願い申し上げます。

〔(一社) 日本航空宇宙工業会 広報部長 高木 伸吾〕